

令和3年度 当初予算

市の一年間のお金の使い方をもとめた当初予算が決定しました。
 令和3年度の全会計の当初予算額は、前年度と比べて16億5,857万6千円（率にして2.9%）増の593億3,185万円となっています。
 このうち、一般会計は3.7%増の267億7,058万8千円、特別会計は0.3%減の182億2,131万7千円、企業会計は5.7%増の143億3,994万5千円、特別会計は0.3%減の182億2,131万7千円、企業会計は5.7%増の143億3,994万5千円となっています。

〔財政課〕

各会計の当初予算額

一般会計 **267億7,058万8千円**
 (対前年度比 3.7%増)

特別会計 **182億2,131万7千円**
 (対前年度比 0.3%減)

企業会計 **143億3,994万5千円**
 (対前年度比 5.7%増)

全会計 **593億3,185万円**
 (対前年度比 2.9%増)

一般会計の内訳

歳入総額
 267億7,058万8千円

歳出総額
 267億7,058万8千円

前年度と比較すると…

地方交付税 +6,000万円
 普通交付税の増加
 +0.7%

市税 △2億3,712万9千円
 市民税、固定資産税、都市計画税などの減少
 △3.6%

国庫支出金 +4億3,787万6千円
 新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金、子どものための教育・保育給付費などの増加
 +12.7%

県支出金 △1億5,922万6千円
 子育て支援特別対策事業費補助金、隣保館等整備補助金などの減少
 △7.4%

民生費 △2億6,498万7千円
 岸上・名古屋文化センター耐震改修や山田さつきこども園整備費などの減少
 △2.4%

公債費 +2億6,045万2千円
 元利償還金の増加
 +7.2%

衛生費 +2億6,981万4千円
 新型コロナウイルスワクチン接種事業などの増加
 +9.9%

教育費 +6億7,009万1千円
 小学校長寿命化事業費や産業文化会館外壁等改修事業などの増加
 +34.5%



市債 19億5,960万円
 繰入金 17億3,580万7千円
 その他 11億7,529万7千円

商工・農林水産業費 11億9,396万円
 その他 12億8,431万9千円

市民1人当たりの市税負担額
101,686円

市民1人当たりが受ける行政サービス額
433,792円

ごみ処理や病気の予防など
48,746円

借入金の返済
62,912円

高齢者や児童の福祉など
171,058円

学校や公民館、図書館など
42,311円

証明書の発行など
38,335円

消防・救急活動など
16,680円

道路や公園の整備など
30,272円

その他（議会関連経費など）
4,131円

商業や農林業の振興など
19,347円

※「市民1人当たりの市税負担額」および「市民1人当たりが受ける行政サービス額」は令和3年1月31日の市の住民基本台帳登録人口数（61,713人）で除して算出しています。

歳入

市税については、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民税や固定資産税の減額が見込まれることから、前年度に引き続き減額の予算となっています。
 また、社会保障費の増加などの影響もあり、市の貯金である基金の取り崩しによる繰入金も増加しており、依然として財政事情は厳しく、財源不足に対応するため基金からの繰入りに頼った予算編成となっています。

歳出

主な事業として、学校施設の長寿化のため西部・紀見・城山小学校の大規模改修事業、老朽化した紀見地区公民館・郷土資料館・あさもよし歴史館の移転統合事業など、施設の老朽化対策を進め、教育環境の改善に向けた取り組みを行います。
 また、ハザードマップの更新、災害備蓄品の購入などの自然災害に対する防災機能の強化、紙おむつの戸別回収に取り組む福祉収集事業や新型コロナウイルスワクチン接種事業など、住民の安全・安心な暮らしを守るための取り組みを反映した予算編成となっています。

一般会計の概要

基金と市債残高

基金は、財政調整基金や特定事業のために積み立てた地域づくり基金などの特定目的基金を取り崩したことにより減少しています。
 市債は、償還が進んでおり、残高は減少しています。

